

6. 公営住宅等を整備する事業、中心市街地共同住宅供給事業その他の住宅の供給のための事業及び当該事業と一体として行う居住環境の向上のための事業等に関する事項

[1] 街なか居住の推進の必要性

現状分析

黒石市の人口は、若年人口の流出、少子化などの理由により、年々減少傾向にある。昭和55年をピークに緩やかな減少が続き、世帯人員は一貫して減少している。中心市街地でも同様の傾向が見られ、人口、世帯数ともに市全体の減少率を上回る状況が続いている。

一方で、高齢者数は着実に増加を続け、平成29年には高齢化率が30%台に達し、令和7年には35%台に達するものと予想されている。また、65歳以上の高齢者がいる世帯は、高齢化率の上昇に比例して年々増加している。

さらに、高齢者世帯数も増加しており、平成22年から平成27年の5年間で高齢者単身世帯は263世帯増え1,414世帯に、高齢者夫婦世帯は141世帯増え、1,148世帯となった。(高齢者福祉計画)

今後も少子高齢化社会が進行していくものと思われ、人口の流出防止だけでなく、子どもから高齢者まで、誰もが安心して暮らせる住環境の整備が必要となっている。

また、市内の住宅の状況について、空き家総数は減少の傾向となっているが、賃貸用でも売却用でもない管理不全等の可能性が考えられる「その他の住宅」の総数は増加している。

調査年	住宅総数	空き家				
		総数	二次的住宅※	賃貸用の住宅	売却用の住宅	その他の住宅
平成15年	12,910	1,620	70	820	50	680
平成20年	13,630	1,900	40	920	20	920
平成25年	12,840	1,530	10	460	10	1,060

※二次的住宅：別荘やたまに寝泊りしている人がいる住宅

出典：住宅・土地統計調査

黒石市の市街地の約8割は宅地として利用されており、中心市街地内にも多くの宅地がある。市民意識調査の結果、回答者の約8割は長く黒石市に居住しており、約4割が「住みやすい」と感じている。さらに約半数の市民が「これからも住み続けたい」と回答した。

事業の必要性

街なかの利便性を活かした子育て支援策の充実や生活環境の改善などにより、子どもから高齢者まで誰もが安心して安全な暮らしを支援することで人口流出抑制や若者世帯の定住促進につなげていくことが重要となる。

中心市街地の管理不全の空き家や空き店舗を適正に管理・活用することで、防災・防犯といった安全性の確保や「寂しい、廃れている」といったイメージの回復を図り、基本計画で設定した暮らしの安心の向上と市街地活性化につなげる必要がある。

フォローアップ

基本計画に位置付けられた各事業については、計画期間の各年度に進捗状況を調査し、状況に応じて事業の促進などの改善措置を講じる。また、計画期間の最終年度に、再度進捗状況を調査し、中心市街地活性化の効果的な推進を図るものとする。

[2] 具体的事業の内容

(1) 法に定める特別の措置に関連する事業

該当なし

(2) ①認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関連する事業

該当なし

(2) ②認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に関連する事業

該当なし

(3) 中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	中心市街地の活性化を実現するための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
<p>事業名 6-① 妊産婦ダイケアサービス事業（ポムハウス）</p> <p>内容 保健師・助産師等によるダイケアサービス参加型の相談支援・交流支援</p> <p>実施時期 平成 28 年度～</p>	黒石市	<p>産前産後に不安を抱えた妊産婦の負担や孤立感の軽減を図るとともに、妊産婦同士の交流の場を提供するため、保健師・助産師等によるダイケアサービス参加型の相談支援・交流支援を行う。街なか子育て仲間との交流の場を創出することにより、街なかの居住環境整備と、交流人口の増加による賑わいの創出に寄与する事業である。</p> <p>実施場所：松の湯交流館 実施回数：33 回(29 年度)</p>	<p>支援措置 母子保健衛生費 国庫補助金</p> <p>実施時期 令和元年度～ 令和 5 年度</p>	

(4) 国の支援がないその他の事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	中心市街地の活性化を実現するための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
<p>事業名 6-② 弘前圏域空き家・空き地バンク連携事業</p> <p>内容 弘前圏域での「空き家・空き地バンク」運営</p> <p>実施時期 平成 30 年度～令和 3 年度</p>	<p>不動産団体・金融機関・弘前圏域定住自立圏構成市町村・黒石市</p>	<p>弘前圏域で「空き家・空き地バンク」を運営することで中心市街地内においても空き家・空き地の利活用の促進を図り、活性化につなげる。</p> <p>定住人口の増加及び街なかの賑わい創出のため必要な事業である。</p>		
<p>事業名 6-③ カラス対策事業</p> <p>内容 カラスによるごみ散乱やふん等の被害対策</p> <p>実施時期 平成 24 年度～</p>	<p>黒石市</p>	<p>カラスによるごみ散乱やふん等被害対策のために、町会を基本単位として、防鳥具や清掃具の貸与による環境保全の支援を行うほか、中心市街地で開催されるイベント等の開催時期にあわせ、重点的に開催エリアの清掃作業、追い払い等、効果的なカラス対策を実施する。</p> <p>また、中心市街地内の住民にも協力を仰ぎ、同時刻に広いエリアで追い払い作業を実施するなどの新たな取り組みにより、快適な生活空間の確保と、観光振興及び交流人口の増加を図る。</p>		